

大河ドラマの舞台地となった自治体の施策について

— 『西郷どん』の鹿児島を中心に —

Promotion by utilizing NHK Taiga drama
—Focus on Kagoshima linked to Segodon—

中村 忠司*
NAKAMURA Tadashi

要約 NHK の大河ドラマは、1963 年の第 1 作『花の生涯』放送以来国民的番組として定着し、今回の『西郷どん』で 57 作目を迎える。大河ドラマの舞台地には毎年多くの観光客が訪れ、経済効果は 200 億円を超える。そのため舞台地となった地域では大河ドラマを活用した事業を推進するための組織を作り、放送に合わせて様々な観光施策を展開する。実施するのは官民による協議会であるが、その事務局は都道府県や市町村の観光・シティプロモーション担当部署が担う。県と市でどのような推進組織を構成し、具体的施策としてどのような事業を行っているのかを当該自治体へのヒアリングにより確認した。その結果、大河ドラマに関連する予算はその直接的なキャンペーン予算だけでなく様々な予算が関係していること。1つの事業でも県がハード事業を担当し、市がソフト事業を担うなどお互いの事業予算を工夫しながら振興施策を実施していることがわかった。

キーワード：コンテンツ (contents)、観光 (tourism)、プロモーション (promotion)、役割 (roles)

1. はじめに

アニメ聖地巡礼をはじめとして、映画、ドラマ、アニメ、漫画、小説、音楽などの舞台地を訪問する旅が、コンテンツツーリズムとして人気となっている。コンテンツツーリズムとは、地域に「コンテンツを通じて醸成された地域固有のイメージ」としての「物語性」「テーマ性」を付加し、その物語性を観光資源として活用することである。増淵 (2010) は、「地域イメージの形成においてももはやコンテンツ作品は不可欠の要素であり、故にその活用を真剣に考える時代が到来しているともいえる。コンテンツ作品は地域資源において重要な位置を占めている。地域のブランド化に充分、寄与貢献できることが理解出来る」としている。

大河ドラマ観光は舞台地が毎年多くの観光客を集め、経済効果も 200 億円以上と大きいことから最大のコンテンツツーリズムとして注目される。今回の『西郷どん』による鹿児島県への経済波及効果予測を日本銀行鹿児島支店が 307 億円、日本政策投資銀行と日本経済研究所が 328 億円と発表している。

当該地の自治体は官民共同で推進の組織を立ち上げ、予算をつけて積極的にプロモーションを行う。中心になって事業を推進するのは県や舞台となる市町村である。県と市ではどのような推進組織を構成しているか、どのような施策を事業として行っているかを大河ドラマ『西郷どん』を核に事業を展開中の鹿児島県の自治体にヒアリングを行い、確認することとした。具体的なヒアリング先は、鹿児島県と大河ドラマ館が設置されている鹿児島市と指宿市である。

2. 大河ドラマの特徴について

大河ドラマとは、1963 年の第 1 作『花の生涯』から始まり今回の『西郷どん (せごどん)』で 57 作目を迎える NHK の国民的放送番組である。多くの作品は日本の歴史の中でひとりの人物に焦点を当てその一代記を描いている。時代背景は平安時代から昭和まで幅広いが、戦国時代や幕末が多い。現在の放送形態は、地上波では総合テレビ日曜日の 20 時から 45 分間で 1 年間を通じて 50 回前後放送される。土曜日に再放送されるほか、BS プレミアムや NHK ワールド・プレミアムでも放送されている。視聴率も高く、1987 年に放送された『独眼

* 大阪観光大学観光学部

『竜政宗』は関東地区平均で大河ドラマ最高の39.7%、最高視聴率は47.8%となった。番組の最後に紀行があり、舞台となった名所旧跡などが紹介される。

表-1 NHK大河ドラマ1995年以降の作品と舞台地

放送年	タイトル	主人公	時代背景	主な舞台地 (都道府県)	視聴率 (%)*
1995年	八代将軍吉宗	徳川吉宗	江戸	和歌山、東京	26.4
1996年	秀吉	豊臣秀吉	戦国	滋賀、京都、大阪	30.5
1997年	毛利元就	毛利元就	戦国	広島、山口	23.4
1998年	徳川慶喜	徳川慶喜	幕末	茨城、東京	21.1
1999年	元禄繚乱	大石内蔵助	江戸	東京、兵庫	20.2
2000年	葵 徳川三代	徳川家康・徳川秀忠・徳川家光	戦国、江戸	岐阜、静岡、東京	18.5
2001年	北条時宗	北条時宗	鎌倉	神奈川、福岡	18.5
2002年	利家とまつ	前田利家・まつ	戦国、江戸	石川、愛知	22.1
2003年	武蔵 MUSASHI	宮本武蔵	江戸	山口、熊本、岡山	16.7
2004年	新選組!	近藤勇	幕末	京都、東京	17.4
2005年	義経	源義経	平安	岩手、神奈川、京都	19.5
2006年	功名が辻	千代・山内一豊	戦国、江戸	愛知、高知	20.9
2007年	風林火山	山本勘助	戦国	山梨、長野	18.7
2008年	篤姫	篤姫	幕末	鹿児島、東京	24.5
2009年	天地人	直江兼続	戦国、江戸	新潟、山形	21.2
2010年	龍馬伝	坂本龍馬	幕末	高知、長崎、京都	18.7
2011年	江	江	戦国、江戸	滋賀、愛知、東京	19.1
2012年	平清盛	平清盛	平安	広島、兵庫	12.0
2013年	八重の桜	新島八重	幕末、明治	福島、京都	14.6
2014年	軍師官兵衛	黒田官兵衛	戦国、江戸	兵庫、滋賀、福岡、大分	15.8
2015年	花燃ゆ	杉文	幕末、明治	山口、群馬	12.0
2016年	真田丸	真田幸村	戦国、江戸	長野、和歌山	16.6
2017年	おんな城主 直虎	井伊直虎	戦国	静岡	12.8
2018年	西郷どん	西郷隆盛	幕末、明治	鹿児島	12.7
2019年	いだてん	金栗四三・田畑政治	大正、昭和	熊本、東京	-
2020年	麒麟がくる	明智光秀	戦国	岐阜、滋賀、京都	-

* 視聴率は関東地区の平均（初回～最終回）。 出典：ビデオリサーチ他より筆者作成。

3. 調査の概要

(1) 対象とする大河ドラマ作品

今回対象とする『西郷どん』はNHKの発表によると明治維新のヒーロー・西郷隆盛を「勇気と実行力」で時代を切り開く“愛に溢れたリーダー”として描くものとしている。舞台としては薩摩での西郷の子供時代から始まり、島津斉彬の庭番となる江戸、流刑になり流される奄美大島や沖永良部島などの離島、坂本龍馬や岩倉具視とともに時代の中心人物となっていく京都、明治維新を成し遂げた後に起こる西南戦争に至るまでとなる。

西郷隆盛を主人公にした大河ドラマでは、大久保利通との友情と対立を軸にした『翔ぶが如く』が1990年に

放送されている。西郷は今回語りで登場する西田敏行が演じている。また鹿児島を舞台としたものでは宮崎あおいが演じた『篤姫』が2008年に放送されている。

<対象作品>

- ・作品名：『西郷どん』
- ・登場人物：西郷吉之助（鈴木亮平）、大久保一蔵（瑛太）、西郷従道（錦戸亮）、糸（黒木華）他
- ・放送開始：2018年1月7日（日）
- ・放送回数：47回『西郷どん』スペシャルの特別番組が3回入るため通常の放送回数よりも少ない。
- ・原作：林真理子（2017）『西郷どん！』KADOKAWA
- ・脚本：中園ミホ

（2）ヒアリング調査

大河ドラマを活用した観光プロモーションに関係する鹿児島県、鹿児島市、指宿市の担当者に対してヒアリングを行った。主なヒアリング項目は、①大河ドラマを活用したキャンペーンについて、②推進組織づくりなどである。ヒアリングの期日と場所は、ヒアリング順に指宿市（2018年8月23日、指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ）、鹿児島市（2018年8月24日、西郷どん大河ドラマ館）、鹿児島県（2018年8月24日、鹿児島県庁）となった。

1）鹿児島県 PR・観光戦略部観光課ドラマプロモーション班 主幹 福留薫氏

鹿児島県は2017年の延べ宿泊者数が799万人と過去最高を記録している。観光振興の背景として地方創生で問題意識の高まった自治体の人口の減少がある。鹿児島県では2010年の人口170万人が2040年には130万人と大幅に減少することが予測されている。日本全体でも人口が減少する中で外国人旅行者を含めた観光交流人口を増加させることで経済効果を高め、定住人口の消費額減少分を観光客の旅行消費額増加分でカバーしたいという考え方があ

る。九州各県との観光集客力の比較では、福岡が圧倒的で延べ宿泊者数1位である。鹿児島は2位であるが、外国人旅行者の延べ宿泊数では74万人と福岡県、大分県、長崎県、熊本県に次いで5位となっている。県では2015年度から5年間の観光振興基本方針を策定し、最終年度である2019年度の数値目標を、①宿泊者数を増やす。延べ宿泊者数950万人（うち外国人延べ宿泊者数43万人）、②観光客の満足度を高め、リピーターを増やす。満足度9割（直近2017年度9割）、③価値を高める。観光消費額3,600億円（直近2016年2,576億円）としている。

大河ドラマ「西郷どん」に関連するプロモーションは以下の通りである。

①大河ドラマを活用したキャンペーンについて

「西郷どん」関係事業については、主に「観光かごしま大キャンペーン推進事業」等を活用しながら、観光かごしま大キャンペーン推進協議会等と連携して実施している。そのため大河ドラマのためだけの推進協議会は、県を中心としては組織していない。

観光かごしま大キャンペーン推進協議会の目的は、以下の通りである。

新しい観光かごしまの魅力を全国にPRするため、県、県観光連盟、市町村、観光関係団体、業界等が一体となって、積極的な観光広報宣伝を展開することによって、一層の観光客誘致を図ることを目的とする。

目的を達成するための事業としては、5項目ある。

- ①鹿児島県観光の紹介宣伝活動に関する事業。
- ②観光客の誘致促進に関する事業。
- ③イベントの実施、展開に関する事業。
- ④観光客の受入態勢の整備に関する事業。
- ⑤その他当該協議会の目的達成に必要な事業。

「西郷どん」キャンペーン事業等（平成29年度）としては具体的には、以下の施策となる。

<観光施策の例>

○県内外への情報発信事業

- ・NHK とのタイアップ（パブリックビューイング、NHK 関係雑誌への広告掲載など）
- ・Web を活用した情報発信（公式ウェブサイト・フェイスブック・ツイッター）
- ・講演会等の開催（県内外におけるトークショー）
- ・広報媒体及びイベント等でのPR（雑誌媒体等による情報発信、イベント出展、県内ゆかりの地を巡るツアーの造成、物産展などにおけるパネル展）

○効果的な広報宣伝素材の作成

- ・パンフレットの作成（総合ガイドブック「西郷どん案内帖」、特典付きフリーマガジン など）
- ・広告宣伝素材の作成（ステップ広告・シール広告の掲出、キャンペーンポスター・キャラクターパネル、観光PR用ノベルティ など）

○受入体制整備

- ・まちあるきガイド育成支援
- ・西郷どんまちめぐりマップ（情報サイト） など

○ロケ支援

<大河ドラマ館の設置> *各市と連携

○鹿児島市「西郷どん大河ドラマ館」

- ・期間：2018年1月13日～2019年1月14日
- ・場所：鹿児島市加治屋町20-1（鹿児島市立病院跡地）
- ・営業：9:00～17:00
- ・料金：大人600円（高校生以上）、小中学生300円

○指宿市「いぶすき西郷どん館」

- ・期間：2018年1月12日～2019年1月14日
- ・場所：指宿市十二町2290（指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれ内）
- ・営業：9:00～17:00
- ・料金：大人500円（高校生以上）、小中学生300円

<「西郷どん」ゆかりの地の整備>

○「西郷どん」ゆかりの地8箇所を、魅力ある観光地づくり事業を活用して、地元市町村等と連携を図りながら整備

- ・「維新ドラマの道」整備（鹿児島市）
- ・「鰻温泉（西郷の湯治先）」整備（指宿市）
- ・「森山家住宅周辺（加治木港に船を着け立ち寄った地）」整備（始良市）
- ・「日当山温泉郷（西郷の湯治先）」整備（霧島市） *霧島市日当山西郷どん村としてオープン。
- ・「西郷南洲史跡周辺（幕府から身を隠した地）」整備（龍郷町）
- ・「奥山家周辺（沖永良部島へ向かう船を待つ間に過ごした地）」整備（徳之島町）
- ・「『敬天愛人』の悟りに至った地」整備（和泊町）

「維新ドラマの道」は2018年1月9日にオープンし、甲突川左岸緑地に幕末から明治にかけて登場した鹿児島島の英傑にまつわる7つのエピソードを紹介している。AR技術を活用し、スマートフォンを画面にかざすと歴史ドラマを4カ国語で見ることができる。ハード事業を県が、ソフト事業を市が負担して行っている。西郷隆盛や大久保利通らの生家や維新ふるさと館のあるエリアから維新ふるさとの道を通り、歴史の連続性をもたせ

大河ドラマ館に至る観光導線を作り出している。

<国内プロモーション事業（JR タイアップ）>

○大河ドラマ放送開始に合わせ、JR 東海・JR 西日本・JR 九州と共同でプロモーションを行う。

- ・JR 大阪駅、JR 博多駅、JR 鹿児島中央駅大型看板の設置
- ・JR 九州新幹線ラッピングトレイン など

②推進組織づくりについて

県では大河ドラマ「西郷どん」の放送効果を活かした誘客促進を図るため、2017年4月観光課内にドラマプロモーション班を設置し、1995年に設立された「観光かごしま大キャンペーン推進協議会」等と連携しながら事業を行っている。

なお、推進協議会の会長は知事、副会長は観光連盟・商工会議所連合会・商工会連合会・市長会・町村会の会長5名が就任し、理事は観光関連団体や交通事業者、県PR・観光戦略部など16名、監事2名、正会員65団体、賛助会員17団体で構成されている。

<インタビューのポイント>

- ・鹿児島県は南北600キロにわたる広い県土がある。東京から青森に匹敵する距離。有人離島数は26で離島面積は全国1位。農業県であり、鹿児島黒牛は和牛日本一になった。豊かな自然や食、歴史・文化遺産など鹿児島の魅力を広く情報発信し、国内外から来訪いただけるよう取り組んでいる。
- ・2016年4月の熊本地震発生による宿泊数の落ち込みからは回復したが、2017年10月以降の霧島山噴火の影響は北部の霧島地区ではある。
- ・旅行会社から西郷どん関連の旅行商品は、鹿児島市と霧島市、指宿市を組み合わせた2泊3日の旅行行程で来るパターンが多いと聞いている。
- ・PRに関しては、県内外でのイベントの実施や各種メディア等を活用したPR、交通事業者と連携したプロモーションなどの情報発信を行っている。また、噴火の影響のある霧島地区のプロモーションや大隅半島（大河ドラマオープニング映像の雄川の滝など）、奄美大島（やはりオープニング映像の宮古崎など）等の大河ドラマ関係の新たな観光素材をPRしている。
- ・大河ドラマと直接関係ないが2次交通の脆弱な地域（大隅地区など）への対策として、タクシー・レンタカー利用者へ最大5000円の助成を行う「らくらくかごしま巡り」で観光客の宿泊促進と回遊性を高める事業を行っている。
- ・大隅地区の雄川の滝は今まであまり知られていなかったが、オープニング映像で紹介されてたくさんの観光客が訪れるようになった。駐車場など受入体制の充実に努めている。
- ・指宿市では鰻温泉で、「西郷どん」ゆかりの地の整備として駐車場等を整備している。
- ・地域観光資源の磨き上げとして、新たな着地型旅行商品の造成やボランティアガイドの育成支援、観光アドバイザーの派遣等を行い、国内外からの誘客を促進している。

2) 鹿児島市 明治維新150年・西郷どん推進室 室長 上堀内強氏、同部署 主査 末吉広海氏、西郷どん 大河ドラマ館 館長兼入場券販売管理センター長 川崎澄義氏

鹿児島市も2017年の観光客数は延べ宿泊者数が379万人、うち外国人旅行者数は35万人で、いずれも過去最高を記録している。増加の理由として、国内においては明治維新150年や大河ドラマ「西郷どん」の放送決定により、「維新のふるさと鹿児島市」への関心が高まったこと。また外国人旅行者の増加は韓国線や香港線でのLCCの新規就航や増便、クルーズ船の寄港回数の増加を挙げている。

鹿児島市を訪れる宿泊観光客は2017年は鹿児島県内が23.7%、他の九州各県が31.5%、関東が17.4%、関西が8.4%となり、九州の比率が55.2%と高い。観光消費額は1,135億円と過去最高を記録した。

大河ドラマ「西郷どん」に関するプロモーションは以下の通りである。

①大河ドラマを活用したキャンペーンについて

市としては「鹿児島市明治維新150年カウントダウン事業」の一環として行っている。その最終年に『西郷どん』の放送が決まったので非常に弾みがつく結果となった。大河ドラマの誘致活動は鹿児島県観光誘致促進協議会が中心になって行っていた。大河ドラマ「西郷どん」鹿児島市推進協議会は、市長を顧問、副市長を会長として大河ドラマ館の設置・運営を主目的としている。事務局は鹿児島市観光交流局明治維新150年・西郷どん推進室である。県は「西郷どん」キャンペーン事業を主管する鹿児島県PR・観光戦略部観光課の課長が委員として参加している。

<鹿児島市明治維新150年カウントダウン事業>

○事業の実施経緯

- ・明治維新とは江戸幕府の体制が崩壊し近代国家形成の契機となった一連の政治社会の大変革のことであり、薩摩藩はその原動力となった。
- ・2018年に、明治維新から150周年という大きな節目を迎える。
- ・明治維新に至る歴史を、ストーリー性をもったPR素材として県内外に情報発信することにより、観光振興をはじめ、地域経済の活性化を図るため、第5次鹿児島市総合計画の目玉事業の一つとして、本事業を実施する。

○事業の概要

- ・明治維新（1868年）から150年の節目にあたる2018年に向け、2012年から7年間、その年ごとに近代日本の礎を築いた鹿児島に関わりが深い出来事を題材とするイベント等を開催する。

○事業の目的

- ・市民の郷土「鹿児島」への誇りと愛着の醸成
- ・次世代を担う青少年の育成
- ・観光振興をはじめとする地域経済の活性化

○推進施策

- ・市民参加体験型イベントの開催
- ・学校教育を通じた学習活動
- ・だれもが、いつでも、どこでも学べる環境の創出
- ・「維新のふるさと鹿児島市」を県内外で情報発信
- ・来て、見て、体感「維新のふるさと鹿児島市」
- ・伝統的工芸品をはじめとする本市特産品のPRなど商工業の活性化
- ・幕末の薩摩藩とゆかりのある国内外の都市との交流

○事業推進のために

- ・おもてなし体制・基盤の構築
- ・関係機関や民間事業者との連携

<大河ドラマ「西郷どん」鹿児島市推進協議会>

目的は以下の通りである。

大河ドラマの放送を契機に、明治維新の原動力となった薩摩藩の歴史や、西郷隆盛をはじめとする幕末から明治維新にかけて活躍した多くの偉人を育んだ鹿児島の多彩な魅力を広く情報発信する場となる大河ドラマ館を設置・運営し、観光振興による地域活性化を図ることを目的とする。

目的を達成するための事業としては、3項目ある。

①大河ドラマ「西郷どん」に係るドラマ館設置及び運営等に関すること。

- ②大河ドラマ館に係るイベント実施、情報発信に関すること。
- ③その他協議会の目的を達成するために必要な事業。

<インタビューのポイント>

- ・推進協議会は、2008年の『篤姫』放送に合わせて設立した協議会の構成団体がほぼそのまま構成団体になっている。負担金は県と市、観光関係団体等が拠出している。ドラマ館の建物は既存の施設を利用する場合と、新設する2つのケースがあるが『篤姫』では商業地であるドルフィンポートの既存施設、『西郷どん』では新規となった。使用地は鹿児島市立病院が移転した跡地で、公園にする計画であったが公園基本構想を1年遅らせて設置した。県が5000万円、市が1億3900万円を負担している。場所としては維新関連の主要人物が誕生した加治屋町になる。運営及び入場券販売管理は近畿日本ツーリスト九州とTSP太陽による共同事業体に委託している。
- ・前回の「篤姫館」は大河ドラマの視聴率も高く人気となった。そのため1月12日に終了する予定を3月31日まで延長し、当初目標の20万人を大きく上回る67万人が入場した。収支が良く税金を払ったうえ、銅像や関連映画への出資を行った。篤姫の存在は県内の人にもあまり知られておらず、大河ドラマを契機に新たなヒロインが誕生したと言える。「西郷どん」の場合は県外入場者が70%と高い。元々誰もが知っている人物なので県内の人には急いで見に来ることはないのではないか。九州以外の県外では首都圏を除くと岐阜が多い。木曾川の治水事業を薩摩が行った縁がある。
- ・「鹿児島ぶらりまち歩き」という観光ボランティアガイドとめぐるコースを導入している。16コースで大人500円・小人100円の設定。集合場所は鹿児島まち歩き観光ステーションや城山、石橋記念館などで周遊バスのカゴシマシティビューで行くことができる。
- ・2017年度事業で歴史ロード“維新ドラマの道”を整備した。鹿児島中央駅からの回遊性を高めるためにモニュメントを設置し、アプリで映像が見られる。ハード部分を県が、ソフト部分を市が実施した。
- ・稼ぐ観光を意識して事業を行っている。まちなかおもてなし事業として、鹿児島中央駅や天文館周辺での観光客へのおもてなし活動のほか、大河ドラマ館の広場における市民活動団体等によるステージの運営などを事業者にも運営してもらい、この事業を通して今後観光にかかわる者の育成・支援を行うこともしている。
- ・国内観光客が中心で、外国人観光客は特に意識していない。香港・台湾が多く、仙巖園などに行く。クルーズも最近は多い。NHKワールド・プレミアムで海外でも同時期に放送されている。

3) 指宿市産業振興部観光課観光企画係 主事 濱田奈保美氏

指宿市の2017年延べ宿泊者数は前年とほぼ同じ65万人、うち外国人旅行者の延べ宿泊数は対前年比124%の高い伸びを示し8万人となっている。

いぶすき西郷どん実行委員会（事務局：指宿市産業振興部観光課）が中心となって事業を行っている。実行委員会は2017年8月に設置された。

大河ドラマ「西郷どん」に関連するプロモーションは以下の通りである。

①いぶすき西郷どん館の設置

既存の指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ内に、1階は大河ドラマ館としてパネル展示や衣装・小道具の展示、AR写真体験や西郷どんゆかりのシャツの試着体験を実施している。2階は特別企画展として「西郷隆盛と海洋国家薩摩－明治維新へ指宿が果たした役割－」をテーマに貴重な実物資料を展示している。運営は市の職員が行っている。

②いぶすき西郷どんガイドの育成・運営

鰻温泉まち歩きでは、温泉好きの西郷隆盛が1か月ほど滞在した鄙びた温泉地内を、西郷逗留地跡や鰻池など西郷目線でまち歩きができ、スメと呼ばれる温泉熱を利用した天然のかまどで卵や季節の野菜を蒸す体験が楽しめる。山川港まち歩きでは、西郷隆盛が奄美大島に2度出港した際に滞在をし、また中世から薩摩

藩の貿易港として幕末期の藩財政を支えた重要な拠点であった山川港周辺を散策する。いずれも一般500円で指宿市観光協会が窓口になっている。

③ SEGO!!BUS（臨時バスの運行）

指宿港からJR指宿駅、いぶすき西郷どん館、JR山川駅、山川棧橋、鰻温泉の西郷どんゆかりの地を巡る臨時バスを1日5便、運賃100円で運行している。

④ 鰻温泉の13匹の犬たち

鰻集落内の13ヶ所で犬をモチーフとした石像の「案内犬」を設置している。

⑤ その他（鰻温泉駐車場整備、インスタグラムキャンペーン、市内宿泊施設限定プレゼント）

<インタビューのポイント>

- ・大河ドラマ『西郷どん』の決定を受けて、「いぶすき西郷どん実行委員会」が2017年8月に発足した。事務局は指宿市観光課である。事務局の場所は、この指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれにある。
- ・実行委員会として「いぶすき西郷どん館」の設置、「西郷どん指宿ゆかりの地巡りバスSEGO!!BUS」の運行などに取り組んでいる。
- ・西郷隆盛ゆかりの地をガイドと巡る「いぶすき西郷どんガイド」の運営は観光協会が行っている。
- ・大河ドラマ館は実行委員会が運営している。入場券管理も実行委員会で行っている。建物は指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれで市教育委員会が所管している。
- ・10年前に『篤姫』の放送があった時にも、いぶすき篤姫館実行委員会を作り、ふれあいプラザなのはな館に「いぶすき篤姫館」を設置した。目標は8万人で17.6万人の入場者数となった。指宿は西郷隆盛よりも篤姫のほうがゆかりが深い。
- ・団体と個人では個人が中心である。外国人観光客は砂むし温泉には行くが、大河ドラマ館には来ない。
- ・2階で貴重な実物の資料を特別企画展として展示しているが、評判がいい。
- ・指宿は県民にとっては温泉に来るところ。
- ・鰻温泉は民宿中心の鄙びた温泉地だが、県の予算で西郷どんゆかりの地として整備を行った。ボランティアガイドによるまち歩き事業を行っているが、放送終了後も継続予定である。

4. 考察

2018年度の鹿児島県観光振興施策の総額は約24億円で、県の大河ドラマ「西郷どん」キャンペーン事業は観光かごしま大キャンペーン推進事業（1億3250万円）の中で4,750万円が予算として計上されている。内容は「西郷どん」をテーマに鹿児島県の魅力のPRや観光地づくり、旅行商品の造成等となっている。一見大河ドラマ関連予算としては少なく思えるが、実際には魅力ある観光地づくり事業（11億円）の一部や2017年度は国内誘客プロモーション事業なども活用され、大きな関連予算となっている。また観光かごしま大キャンペーン推進協議会に、西郷どん関係として関係市町等が負担金を支出するなど大河ドラマを活用したキャンペーン事業は様々な事業項目から拠出され、大きな予算となるのが1つの特徴といえる。

また県と市町村で役割分担を決めて1つの事業を推進することも特徴である。例えば鹿児島市内の「維新ドラマの道」の整備事業では7つの大型モニュメントを設置しているが、ハード面を県、スマホを使ったARなどソフト面を鹿児島市が負担して1つの事業を作り上げている。指宿市の鰻温泉ではまち歩きをしやすいようにトイレや駐車場の整備などを県が行い、ボランティアガイドによるまち歩きやスメ体験は観光協会が中心になって行っている。

過去に大河ドラマの舞台地となった自治体では、組織や予算作りなどでベースとなるものがある。だが2019年の『いだてん～東京オリムピック噺～』の主人公の一人である金栗四三ゆかりの熊本県玉名地域の自治体や2020年の『麒麟がくる』の主人公である明智光秀ゆかりの京都府北部や兵庫県丹波地区の自治体では、どのように組織や予算を作り上げていくかを模索することになるが、『西郷どん』における鹿児島県と関係する市の組

織や予算作りは極めて応用できるモデルとなっている。

謝辞：本研究は、大阪観光大学の個別研究「コンテンツツーリズムの研究」の成果の一貫である。

【参考文献】

- 1) 指宿市観光課、2018、「指宿市「西郷どん」情報」
- 2) 観光かごしま大キャンペーン推進協議会、2018、「平成 30 年度観光かごしま大キャンペーン推進協議会総会資料」
- 3) 鹿児島県 PR・観光戦略部観光課、2018、「大河ドラマ「西郷どん」キャンペーンの取組について」
- 4) 鹿児島県、2018、「鹿児島県観光振興基本方針（中間報告書）」
- 5) 大河ドラマ「西郷どん」鹿児島市推進協議会、2017、「大河ドラマ「西郷どん」鹿児島市推進協議会規約」
- 5) 日本銀行鹿児島支店、2017、「大河ドラマ「西郷どん」の経済波及効果」
- 6) 日本政策投資銀行・日本経済研究所、2017、「鹿児島県観光調査～大河ドラマ効果と今後の課題・期待～報告書」
- 7) 増淵敏之、2010、『物語を旅する人々』、彩流社